

# フォレスト ウィンズ Forest Winds

No.34 2008年8月

もりからのかせ・東北



独立行政法人・森林総合研究所・東北支所

## 並木は動物たちの通り道



ふるさと遺産・巣子の松街道

### 並木は誰のもの？

森林総合研究所東北支所（岩手県盛岡市）の正門前には、国道4号線に沿ってアカマツ（樹高20m）が優占する幅15m程の並木が続いています。この並木は、岩手県の環境緑地保全地域となっているほか、「ふるさと遺産・巣子の松街道」の愛称で地域の人々に親しまれています（写真）。交通量の多い国道と牧草地や農地に挟まれた並木ですが、実は人間の気がつかないところで意外と多くの動物（哺乳類）が利用していることがわかりました。

### どのようにしてわかる？

通常、動物たちは人間がいるところには警戒して出てきません。そこで、動物の体温を感知してシャッターが切れるタイプのセンサーカメラ（FieldnoteDCs（麻里府商事））を用いることにしました。2007年5月から12月にかけて東北支所正門前とそこから北方に2.5km離れた地点の2箇所に延べ207カメラ・日設置しました。このカメラは動物を感知してからシャッターが切れるまでに数秒を要することから動物をとどませるために誘引のためのエサ（ニボシ、ソーセージ、ドッグフード、クルミなど）を置きました。

### どんな動物たちが？

カメラに撮影されたのは、ノウサギ、ニホンリス、ノネズミ類、キツネ、タヌキ、アナグマ、ハクビシン、ネコ（おそらくイエネコ）とニホンカモシカでした。撮影時間帯ごとに動物の種類を見ると、ニホンリスは昼間、ニホンカモシカは昼夜を問わず観察されましたが、そのほかの種はすべて夜間だけ観察されました（図）。この付近に生息すると考えられる地上性の中・大型哺乳類で観察できなかったのはテンくらいですので、そのほとんどが観察されたこととなります。ハクビシンは、岩手県でも近年になって分布が拡大しており、農作物への加害も心配される動物であることから今後の動向に注意が必要です。このほか、並木に近い東北支所構内の桜の木では同カメラによる観察で2008年2月から3月にかけてムササビも確認されました。

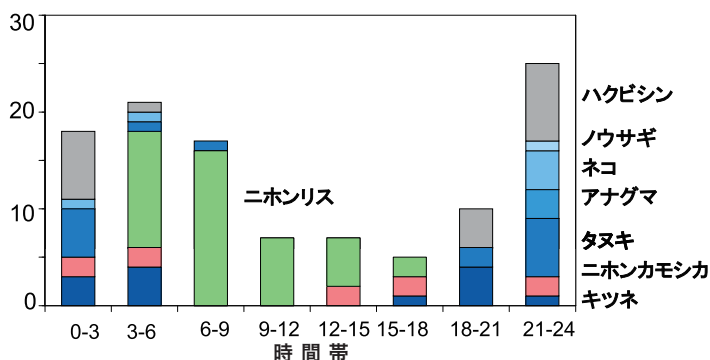


図 撮影された時間帯と動物の数



## 都市近郊並木の価値

人間による土地利用が進んでいる都市近郊の並木でもこのように比較的多くの動物が観察され、野生動物にとって「緑の回廊」として機能していることが明らかになりました。低地に残る希少な樹林帯であることから、これらの動物が並木を利用し続けることができるよう、これからも見守っていく必要があります。



調査にご配慮いただいた、独立行政法人家畜改良センター岩手牧場、東北緑化環境保全株式会社、伊達生物調査事務所の方々に感謝いたします。

### 森林総合研究所東北支所

〒020-0123 盛岡市下厨川字鍋屋敷 92-25  
TEL 019-641-2150 FAX 019-641-6747  
ホームページ <http://www.ffpri-thk.affrc.go.jp/>

●生物多様性研究グループ 鈴木 祥 悟